JSQC会員
特別割引価格
1,260円（税込）

JSQC 選書 1

Q-Japan

よみがえれ、品質立国日本

飯塚 悦功　著　ISBN 978-4-542-50450-9

高度成熟経済社会の今にふさわしい
“Q-Japan”（Quality Japan）　の実現へ！

1980 年代に品質立国日本・モノづくり大国日本が成立し得たのはなぜか？ 再び「質（品質）」への求心力を高めるために、今何をすべきか？本書では、質マネジメントの第一人者が、高品質を基盤に経済成長を成し遂げた要因を考察し、成熟経済社会となった現在とのギャップを分析した上で、「質」を中心に成功し続ける重要なポイントを解説します。

【著者略歴】
飯塚　悦功（いいづかよしのり）
現職：東京大学大学院工学系研究科医療社会システム工学寄附講座特任教授
1947 年生まれ。1970 年東京大学工学部計数工学科卒。1974 年修士卒。電気通信大学助手、東京大学助手、講師、助教授、教授を経て現職。工学博士。デミング賞、工業標準化功労賞、日経品質管理文献賞など多数受賞。日本品質管理学会会長（2003 ～ 2005 年）を務めた。著書に、『ISO から TQM 総合質経営へ』（2008 年、共著）、『持続可能な成長を実現する質マネジメントシステム』（2006 年、共著）、『医療の質用語事典』（2005 年、共著）など多数。

【目次要約】

第 1 章　品質立国日本はどこへ　第 2 章　成熟経済社会への変化　パラダイムシフト／質マネジメントの課題　第 3 章　品質立国日本再生への道　時代は変わっても／ Q-Japan 構想　第 4 章　時代が求める精神構造の確立　失われた精神構造の復活／新たな精神構造の獲得／成熟経済社会に必要な精神構造／事故・不祥事を起こす組織の特徴／求められる組織文化　第 5 章　競争力という視点での質の考察　競争力という視点／日本人の競争優位要因／成熟経済社会の事業成功要因／ JIS　Q　9005 ／競争優位のための QMS 構築／我が国が注力すべき産業分野　第 6 章　社会技術のレベル向上　社会技術の確立・レベルアップに必要な要件／社会技術としての医療安全／社会技術の意義　第 7 章 持続的成功を支える行動原理　質アプローチの再認識／質中心／人間尊重／自己変革

JSQC 選書 2

日常管理の基本と実践

日常やるべきことをきっちり実施する

久保田 洋志　著　ISBN 978-4-542-50451-6

あたりまえの事ができていない現状を脱却し、
質問題を起こさない、起こさせないために！

業種・産業を問わず顧客の信頼と支持を獲得するためには、“やるべきことをきっちりやる”誠実さと継続性を徹底することが、その第一歩となります。本書では、日常的活動の維持管理・改善に積極的に取り組むことの重要性を説き、効果的・効率的な実践のあり方を幅広い層に向けて解説します。

【著者略歴】
久保田　洋志（くぼたひろし）
現職：広島工業大学工学部機械システム工学科教授
1943 年生まれ。1968 年広島大学大学院工学研究科経営工学専攻修士卒、同年三洋化成工業株式会社入社。その後、広島工業大学講師、助教授を経て現職。工学博士。工業標準化功労賞、日本機械学会教育賞など多数受賞。日本品質管理学会の副会長、学会誌編集委員長、理事を歴任。著書に、『クォリティマネジメント用語辞典』（2004 年、共著）、『TQM 21 世紀の総合「質」経営』（1999 年、共著）、『生産管理の事典』（1999 年、共著）など多数。

【目次要約】

第 1 章　序論 日常管理の重要性／組織的体系的活動と日常管理　第 2 章　日常管理の基本 日常管理活動の展開／日常管理の事前調整手段としての標準化／処理プロセスの標準化／アウトプット側面の標準化と統制／インプットの標準化／変化への対応　第 3 章　日常管理の基本条件と整備　5S ／見える化／変化点管理／段取りと後始末／異常処理と例外管理　第 4 章　日常管理と改善　改善のための問題の発見と解決に対するアプローチ／再発防止活動と未然防止活動／プロアクティブな改善活動／日常管理と小集団活動の関係／日常管理の基盤となる人材育成　第 5 章　職能部門別の日常管理のポイント　営業部門／製造部門／開発部門／調達部門／管理・間接部門／経営諸要素に対する日常管理のポイント　第 6 章　おわりに　効果的・効率的日常管理を実践するための管理者の役割／効果的・効率的日常管理実践のポイント／日常管理に対する経営者の関心と関与

（社）日本品質管理学会 監修 JSQC選書

各巻：定価 1,575 円（本体 1,500 円） ／四六版 /152 ページ

JSQC会員
特別割引価格
1,260円（税込）

JSQC 選書 3

質を第一とする人材育成

人の質、どう保証する

岩崎 日出男 編著 ISBN 978-4-542-50454-7

すべての経営者は、今一度、質を第一とする
マネジメントの重要性に気づこう！

企業をとりまく経営環境は変わっても、変わらないものは、質の大切さと、それをお客様の視点で考えることができる人材の大切さです。本書は単なる人材開発の一般論ではなく、経営トップから現場の第一線までが、質の向上を最優先に QCD ※のレベルアップを実践できる経営体質を確立するための、人材育成のあり方を提言します。

※QCD ：Quality・Cost・Delivery

【著者略歴】

岩崎 日出男（いわさきひでお）

現職：近畿大学理工学部機械工学科教授

1945 年生まれ。1999 年大阪府立大学大学院工学研究科博士課程修了。近畿大学助教授などを経て現職。工学博士。日経品質管理文献賞受賞。デミング賞委員会実施賞小委員会副委員長、日本品質管理学会理事。著書に、『品質管理のための統計的方法—解析手順と例題演習—』（1989 年，共著）、『クォリティマネジメント入門』（2004 年、共著）、『クォリティマネジメント用語辞典』（2004 年、共著）など多数。

【目次要約】

第 1 章 経営トップがまず質管理を学ぶべきである 質管理は人を育てることから始める／経営者の質に関する責任は重大である／経営者は現場から質管理を学べ 第 2 章 人材育成こそが質管理 人を育成していない企業に質管理はできない／人事部に質教育を任せるな／質管理は現場で学べ 第 3 章 学び教えなければならない質管理の技術 質管理のための技術／質技術能力からの分類 第 4 章 質管理技術者が育たない要因 組織的な要因／質技術の可視化に関する要因／標準化や共有化などの仕組みに関する要因 第 5 章 質管理の知識をどのように教えるのか 質管理の教育内容／階層別教育／データ解析に必要な教育 第 6 章 質技術の人材育成 質技術伝承のための仕組みの確立／質方針の明確化と育成戦略／教育研修による質技術者の人材育成 第 7 章 質を第一とする人材育成システムの要件 質技術の可視化／過去の経験活用／モチベーションの高揚／人材育成こそ経営の最重要施策 第 8 章 QC サークルは人材育成 QC サークル活動がもつ六つの人材育成要素／ QC サークルを実践するために必要な要件 第 9 章 問題解決の実践こそ人材育成の本質 問題解決の手順をマスターする／問題解決力の評価ポイント／問題解決に必要な能力 第 10 章 人材育成の企業事例（株）ジーシー／コニカミノルタグループ 第 11 章 質を第一とする人材育成は社会に対する企業責任

JSQC 選書 4

トラブル未然防止のための知識の構造化

SSM による設計・計画の質を高める知識マネジメント

田村 泰彦 著 ISBN 978-4-542-50453-0

失敗経験を活かし使える知識の整理と、
知識を使ったトラブル未然防止の仕組みとは？

製品の複雑化・多機能化によって、技術者が検討すべき要素はあまりにも多くなりました。“今、まさに設計・計画している仕様において、どのようなトラブルが起こり得るかを気づかせてくれる知識が欲しい”—本書は、その解決アプローチとして SSM ※の手法を解説し、モノづくり業務の設計・計画における未然防止のための知識を整理・活用する方法を説明します。

※SSM：Stress-Strength Model

【著者略歴】

田村 泰彦（たむらやすひこ）

現職：株式会社構造化知識研究所代表取締役。1975 年生まれ。2002 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。その後，同研究科助手を経て 2004 年株式会社構造化知識研究所設立し現職。工学博士。日経品質管理文献賞ほか受賞。日本品質管理学会投稿論文審査委員。主要論文に『工程設計のための不具合に関する知識の運用ー工程不具合の因果連鎖に関する知識構造の構築』など。

【目次要約】

第 1 章 設計・計画におけるトラブル予測・未然防止 設計・計画プロセス／設計・計画時の未然防止の考え方／トラブル予測思考を構造化してみよう 第 2 章 トラブル予測・未然防止に必要な知識 トラブルに関する知識／対象に関する知識／知識の差は予測の差を生む／トラブル情報は宝の山か？／使ってもらえないトラブル情報データベース 第 3 章 知識の構造化の概要と意義 知識を構造化しよう／知識の構造化のメリット／構造化知識の獲得と活用のフロー 第 4 章 トラブルに関する知識の構造化 知識の再利用性を考えよう／本格的な知識の構造化ー SSM による知識構造／トラブルに関する構造化知識と情報基盤 第 5 章 対象に関する知識の構造化 対象に関する知識の構造化／ SSM を利用した対象に関する知識構造 第 6 章 構造化知識を活用したトラブル予測・未然防止 構造化知識を活用した再発防止チェックリスト／構造化知識を活用した FMEA ／構造化知識を活用した FTA 第 7 章 知識の構造化によるトラブル未然防止活動の実践 SSM によるトラブル未然防止活動の実践例／ SSM を活用した様々な未然防止活動の例／ SSM による知識の構造化のメリット